

< お 知 ら せ >
平成 28 年 3 月 3 日
大阪 管 区 気 象 台
関西 航空 地方 気 象 台

関西国際空港において、新たな空港気象ドップラーレーダーの運用を開始しました。

気象庁では、航空機の離発着が多い全国の9空港に空港気象ドップラーレーダーを設置し、空港周辺の風、雨や雪の状況を把握するとともに、これを航空関係機関へ情報提供しています。

今般、関西国際空港に最新鋭の空港気象ドップラーレーダーを導入し、平成28年3月3日(木)15時から運用を開始しましたのでお知らせします。

この新たな空港気象ドップラーレーダーの運用開始により、空港周辺の風の急変をいち早く捉えることができ、また、雨や雪の強さをより正確に観測できるようになります。

本件に関するお問い合わせ先

大阪管区気象台業務課 (TEL06-6949-6302)

関西航空地方気象台 (TEL072-455-1250)

気象庁観測部観測課※ (TEL03-3212-8341 [内線 4146])

※技術的事項に限る

最新鋭の空港気象ドップラーレーダーの導入

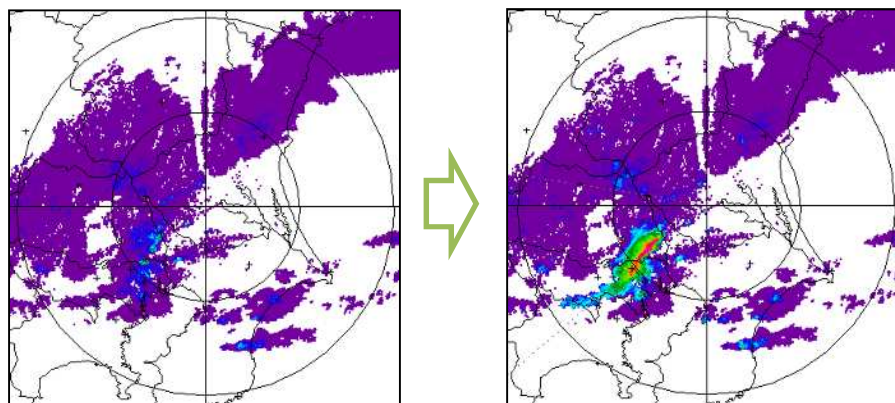
最新鋭の空港気象ドップラーレーダーを主要空港に順次導入し、空港周辺の風、雨や雪の観測を強化。

最新鋭の空港気象ドップラーレーダー（特長）

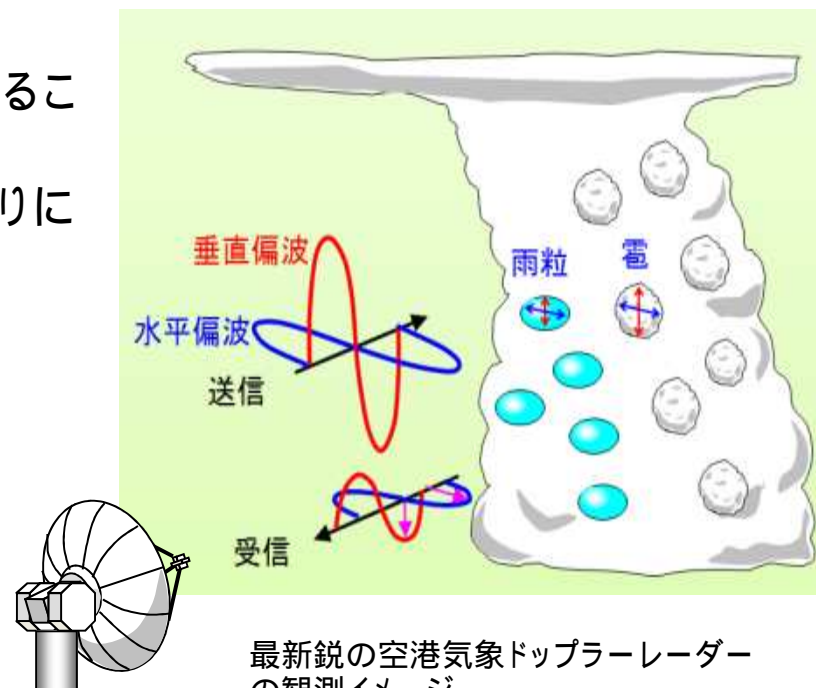
観測頻度が1.2分ごとから1分ごとに増加。これに伴い、風に関する情報の提供頻度も増加。

水平方向・垂直方向に電波を同時に送受信することで、雨や雪の強さをより正確に観測可能。

また、電波の送信部に、従来の真空管の代わりに長寿命な半導体を採用。



降水強度推定精度の向上(イメージ)



最新鋭の空港気象ドップラーレーダーの観測イメージ
(雨粒の形を精度良く捉えることで、雨や雪の強さの観測精度が向上する)